

# 剣淵町（北海道）

## 【自治体のあらまし】

剣淵町は、北海道の中央よりやや北に位置する純農村地帯である。明治30年天塩国（てしおのくに）上川郡に剣淵村・士別村・多寄（たよろ）村・上名寄（かみなよろ）村が設置されたのに始まり、大正4年4月に現在の和寒（わっさむ）町を、また、昭和2年10月に現在の士別市温根別（おんねべつ）町を分村し、昭和37年1月1日に町制を施行して現在に至る。

総面積の約半分を占める農耕地を基盤とする農業を基幹産業とし、総就業人口の約4割を農業就業人口が占める中、昭和63年以降、絵本をテーマにしたまちづくりに取り組む。「心の栄養は絵本で」「身体の栄養は無農薬野菜で」を合い言葉に農村の町が文化芸術の力によるまちづくりを実践している。

人口3,303人（平成28年3月1日現在）

## 【文化芸術創造都市への代表的な取組】

昭和63年、当時児童図書編集長であった松居友氏を招き、「すばらしい絵本の世界とまちづくり」とテーマに講演会を行い、「剣淵の田園風景は、フランス、ドイツの田園風景にどこかにていて、絵本の持つ自然や生命を大切にする心を持った人たちが暮らすこの町に絵本の美術館ができたらどんなにすばらしいことか。」とのアドバイスを受けた。その言葉をきっかけに、以後、絵本をテーマにしたまちづくりに取り組む。昭和63年に設立された、商工会青年部、農業者、社会福祉施設職員、自治体職員、主婦などの有志からなる「けんぶち絵本の里を創ろう会」が「絵本の里づくり」の中心的な役割を担っている。

### ●絵本の里づくりと農業

平成2年、自然や人に優しい農業を実践し、安全な農産物を消費者に届けようと、まちの農業者が、無農薬・低農薬（有機栽培）の生産者団体である「剣淵・生命を育てる大地の会」を結成。絵本作家のデザインによるチラシなどを作成し、安心して真心を込めた、付加価値の高いじゃがいも、かぼちゃなどを全国各地に販路拡大し、販売を進めている。

また、近年には、剣淵町の若者農業従事者がユニーク



じゃがいも食べくらべセット

な販売手法で多品種少量生産の野菜を販売する「軽トラマルシェ」を考案し、新しいビジネスモデルを生み出している。



軽トラマルシェ 販売会

## ●絵本の館

平成3年8月に旧役場庁舎を改装し開館し、平成16年6月に現在の場所に新築移転した。一般書、児童書と絵本などを所蔵（計68,000冊余り）し、各学校への絵本の巡回文庫や、小学校での絵本の読み聞かせ、施設内での創作教室などを開き、「絵本の里づくり」の活動拠点として、重要な役割を果たしている。

また、館内の、「喫茶・らくがき」は、障害者の自立と社会参加の場として、社会福祉施設が運営を担っている。



絵本の館 外観

### ・平成26年度絵本の館施設利用状況

開館日数 318日

入館者数 大人22,155人 子供11,944人  
計34,099人



絵本の館 館内

## ●けんぶち絵本の里大賞

平成3年、絵本の館来館者から一番多く選ばれた絵本に贈られる賞として「けんぶち絵本の里大賞」が創設された。これまで25回の実績を積み、ここ数年は280~360点程度の応募があり、幅広く絵本作家や絵本出版社に知られている。大賞の副賞には剣淵町農産物が贈呈されるなど農業とのつながりも大きい。

### 平成27年度絵本の里大賞

応募総数357点 投票総数9,893票 授賞式来場者150人



絵本の里大賞 投票の様子



絵本の里大賞 受賞式